

## ピーマン台木「台パワー」は株間40cmが適する

### [要約]

ピーマンの疫病抵抗性台木「台パワー」の接木は草勢が弱く自根より収量減となるが、株間を慣行50cmよりも狭い40cmにすることで慣行と同等の収量となる。

農業総合センター鹿島地帯特産指導所	平成26年度	成果区分	技術情報
-------------------	--------	------	------

### 1. 背景・ねらい

茨城県鹿島南部地域のピーマン産地では疫病が発生している。疫病は枯死株が発生するために被害が大きく、何年にもわたって土壌伝染を繰り返す難防除病害である。そこで当所では防除対策として台木の有効性を実証し、品種選定により「台パワー」を選定した(平成22年度主要成果)。しかし、「台パワー」をはじめとする台木接木ピーマンは、草勢が弱まり収量性が低下するため、普及上の問題となっている。

そこで、台木栽培において慣行栽培と同程度以上となる栽培方法を検証する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1)「台パワー」接木苗は株間50cmで栽培すると草勢が弱く、自根苗に比べて約8%の収量減となる(表1)。
- 2)「台パワー」接木苗は株間40cmにすることで接木による減収を補うことができ、自根苗50cmと同程度の収量になる(図1)。
- 3)10aあたりの年間農業所得は、接木苗の株間40cmで249万円となり、自根苗の株間50cmより28万円低い。しかし、自根苗において枯死株が10%をこえて発生した場合、接木苗の収益が上回る(表2)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1)この成果は台木「台パワー」、穂木「みおぎ」の接木苗における結果である。
- 2)「台パワー」は疫病及び青枯病複合抵抗性台木である。
- 3)「台パワー」は疫病抵抗性を持ち現地圃場においては高い防除効果が認められるが、極度に菌密度が高い等の条件では発病する可能性がある。そのため、還元型太陽熱土壌消毒など他の防除と組み合わせて利用する。

#### 4. 具体的データ

表1 「台パワー」接木苗の生育・収量<sup>1)</sup>

作型	接木 <sup>2)</sup> の有無	株間 (cm)	草丈 (cm)	総節数 <sup>3)</sup>	茎径 <sup>4)</sup> (mm)	収量 (t/10a)	収量比 (%)
半促成	接木	50	139	93	20.4	7.0	92
	自根	50	160	112	21.8	7.6	100
抑制	接木	50	172	120	19.1	6.0	91
	自根	50	178	124	19.9	6.6	100

1) H22～26年度の平均値。

2) 接木: 台木「台パワー」、穂木「みおぎ」の接木苗。自根: 「みおぎ」自根苗。

3) 第1分枝節より上位の主枝及び側枝の節数。

4) 計測位置は第1分枝下。

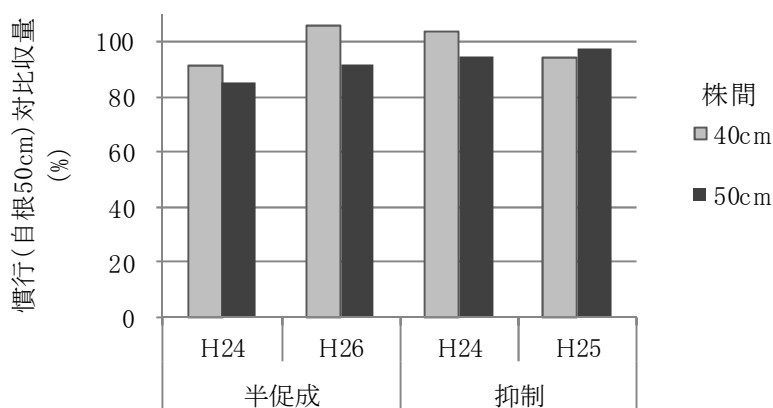


図1 「台パワー」接木苗<sup>1)</sup>の株間と収量性

1) 台木「台パワー」、穂木「みおぎ」の接木苗。

表2 「台パワー」接木苗を利用した場合の10aあたりの収益性<sup>1)</sup>(半促成+抑制)

接木 <sup>2)</sup> の有無	株間 (cm)	定植 本数 (株)	収量 <sup>3)</sup> (t)	粗 <sup>4)</sup> 収益 (千円)	苗代 <sup>5)</sup> (千円)	雇用 <sup>6)</sup> 労賃 (千円)	その他 (千円)	経営費 (千円)	農業 所得 (千円)	所得 差 (千円)	所得差が <sup>7)</sup> 同等となる 枯死株率 (%)
接木	40	2778	14.4	4,968	444	191	1,842	2,477	2,491	-	-
自根	50	2222	14.6	5,029	244	175	1,842	2,261	2,768	277	10

1) H25 茨城県主要作物別経営指標を一部改変し、以下の条件で行った。

2) 接木: 台木「台パワー」、穂木「みおぎ」の接木苗。自根: 「みおぎ」自根苗。

3) H24～26年の平均値。接木: 半促成 8.1t+抑制 6.3t、自根: 半促成 8.2t+抑制 6.4t。

4) 半促成 381 円/kg、抑制 298 円/kg。

5) 購入苗代は接木苗 160 円/株、自根苗 110 円/株。

6) 時給 730 円。定植、糸つり、整枝、誘引作業時間を定植本数に合わせて改変。

7) 定植本数 1 本あたりの農業所得=2768 千円/2222 本(半促成+抑制)=1246 円。所得差 277 千円分の株数=277 千円/1246 円=222 本。所得差が同等となる枯死株率=所得差 277 千円分の枯死株率=222 本/(定植本数 2222 本)=10%。

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ピーマンの立枯れ性病害の防除法の確立・平成 21～23 年度・鹿島地帯特産指導所

ピーマン産地の連携による線虫抵抗性選抜システムの開発と土壌病害虫複合抵抗性台木品種育成・平成 22～24 年度・鹿島地帯特産指導所

ピーマン産地臭化メチル削減緊急対策事業・平成 25 年度・鹿島地帯特産指導所

平成 26 年度トウガラシ安濃交 3 号の系統適応性検定試験・平成 26 年度・鹿島地帯特産指導所